鮎の湖 第５０号
Ｅｒｉ ｎｏ ｋｏ
平成１３年９月発行

発行者
長浜観光ﾎﾞﾗﾝﾀﾘｰｶﾞｲﾄﾞ協会

下郷共済会所蔵品のパネル展示

本誌第４６号でご紹介しました下郷共済会の所蔵品のパネル展示が市内元浜町の旧ＡＳＡビルで開かれています。下郷共済会は明治３６年に下郷久成（２代目）により設立され３８年に認可された全国的にも古い方の財団法人です。地元の教育（図書館・鐘秀館の建設・坂田郡志や長浜町史の編纂等）・社会福祉・土木事業等々に絶大なる寄与をし、伊吹山測候所の建設は気象予報及び航空軍事上のデータの収集のためにおおいに役立ったのです。昭和初期の大恐慌で、出資していた近江銀行が倒産したため、鐘秀館で展示していた美術品や図書館の蔵書の大部分が散逸してしまいました。同館の旧蔵品で現在国指定重要文化財に指定されている物が何点かあるのをみてもその質に高さがよく理解できます。４代目の現理事長は現存する美術品（湖東焼・長浜湖東）や古文書をパネルで公開し、追々実物展示に踏み切りたいと考えておられます。私たちもおおいに期待したいと思います。鐘秀館に陳列されていた物についての一部は本誌４６号でご紹介しましたが、昭和４年に発行された「地方博物館事業に就て（附・鐘秀館建設の経過）」に記載の所蔵品目録から、もう少し詳しくご紹介しましょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

石器時代人面急須形土器、袈裟襷文銅鐸、公家文書（梅小路、日野、近衛、九条等）武家文書（織田、豊臣、徳川、加藤、石田、片桐、本多、土肥等）長浜町三百石朱印状、長浜新銭鋳造禁止朱印状、長浜祭礼絵巻物、古法帖・拓本、近江各窯陶磁器、発掘土瓦器（滋賀県各地）、近江人書画帖・巻物・短冊・色紙（中江藤樹・井伊直弼・森川許六等）、故人書画（益軒・山陽・芭蕉・探幽・応挙・文鱗等）、古今名士書簡（象山・山陽・西園寺等）、現代人書画（春挙・関雪・清方・大観等）、能装束・能面、刀剣類、印籠、裂地類（清朝制服等）、文房具、貨幣・古銭・藩札、外国貨幣、外国陶磁器、発掘土器（ポンペイ）、大理石麒麟、古墳発掘品（三彩）、銅鐸及び足利時代掛仏、古鈴及び磬類、古瓦（飛鳥・奈良・鎌倉・足利・徳川・漢瓦）、鉱石・化石・貝類、各種標本・玩具類、内外切手・絵葉書・写真類、版画・図録・絵本類

以上ですが、詳細な写真図録は縄文土器関係しか出版されませんでしたので、今では実物はどのような物であったか不明な物が多いのは残念なことです。

現在下郷家には三百点ほどの蔵品があるそうですので、それらの一般公開と詳しい研究成果が待たれます。さて、下郷共済会文庫の蔵書はその大部分がトラックで京都に運ばれ、売却されたそうですが、本の多くには次のような印が押されていました。今でもたまにこの印が押された本が古書店に並ぶことがあると聞いています。もし発見されたら是非買われて大切に保存して下さい。　（粕渕宏昭）

えりのこひろば

長浜八幡宮の祭礼に神輿を担ぐのは誰？

もう大分前になりますがパソコン通信（インターネットではありません）の中で曳山祭りと神輿について山組の人と神輿を担ぐ七郷と呼ばれる人たちの間で論争がありました。山組の人の中には七郷は山車がないので仕方なく神輿を担いでいるように思っている人もいたようです。しかし、七郷とは曳山が

のです。昔、このあたりが細江荘（八幡荘）と言われ、八幡宮の氏子であった村々の人達が今も神輿を担いでいるのです。さて、七郷とは何処になるのでしょうか。

昔の村名

宮村（今の日赤のあたり）・高田村・東村・中山・三ツ矢・列見・瀬田村（ほぼ現在の田町から平方まで）

現在神輿を担いでいるのは

渡御　旧町内山組と北三越・北日吉・南呉服南公園町の一部の氏子

還御　神前東・西・一の宮・北門前・八幡東・高田・高田町北・東・中・西・南高田・東高田・分木・列見・中山・中山栄・八幡中山・東三矢北・中・南の氏子となっています。

毎年１０月１５日薪能の終演と共に神輿の還御が行われます。一度じっくりとご覧になっては如何でしょうか。　（宮川琴枝）

彦根城の犬走り

８月末、竹生島と彦根城をガイドしたとき、彦根城内堀の「犬走り」について質問がありました。「犬走り」は石垣の途中で幅２ｍ位の平坦部をつくり、ここに土盛りをし、さらに高く石垣を立ち上げる工法です。これは、外敵が侵入してきたときこうした平坦部があると「ほっと」一息し油断します。この時発見されやすいので、心理的効果を狙ったものだと言われています。石垣の途中にグリーンのベルトがありますので、眼にも優しいし、デザイン的にもとても素晴らしいのですが、除草等の管理は大変みたいです。　（粕渕宏昭）

太閤さん情報

安土城と羽柴邸の発掘結果報告

安土城趾の大規模な発掘調査が平成元年より行われています。この調査で大手道筋に面した羽柴秀吉邸跡と伝えられるところが発掘され、そこより出土した遺物が安土城考古博物館に展示されています。

羽柴邸は上下二段に分かれており、下段には櫓門がありこれをくぐると厩がありました。ここには６頭の馬を飼うことができました。彦根城には天秤櫓や太鼓門櫓・三重櫓が残っていますが、ここの櫓門は最古の遺構と言われています。

上段には隅櫓・高麗門・台所・主殿がありました。隅櫓は大手道に面して建てられており、ここから弓・鉄砲を射かけることができました。台所は北半分の土間から焼けた土が検出されましたので、調理場として考えられたのです。ここで料理されたご馳走が主殿へ運ばれ、屋敷を訪れた信長や大切なお客さん、秀吉一家等に饗されました。秀吉が使ったかも知れない茶碗のかけらが、ここから出土しています。是非ご覧下さい。

靴下のルーツ

豊臣秀頼の靴下と称されるものが京都国立博物館にあります。靴下はいつ頃から作られるようになったのでしょうか。靴は古墳からも出土していますので、靴下もその頃からあったのでしょう。正倉院にも奈良時代の靴下が伝わっています。もちろん足首にはゴムは使われていません。その代わりにひもでくくるようになっていました。秀頼の靴下にはひもがついています。二枚のガラスに挟んで保存されていますが、とてもかわいいものです。伝い歩きの頃くらいに履いていたものでしょうか。靴下が残って涎掛けや腹当て、おむつなどが残っていないのは不思議ですね。渡辺崋山が切腹に使った刀は国宝に指定されていますし、乃木大将の自刃時に着ていた血染めの服や、大津事件の時のニコライ皇太子の血のついたハンカチ、座布団も残されています。先ほどご紹介しました鐘秀館には、明治天皇のワイシャツも展示されていました。世の中何が残るか分からないところが面白いですね。

編集後記

第５０号をお届けします。原稿お待ちします。